

栄光

『命の水源』

説教

イザヤ書55章1節～5節

ヨハネによる福音書4章7節～15節

松谷祐二

説教・「命の水源」 松谷祐二牧師…1
特集・お気に入りの 場所、心の風景2 ……………2
西南支区婦人部 報告……………4
図書委員会だより ……………5
長老のファイル…5
牧師の寄り道…6

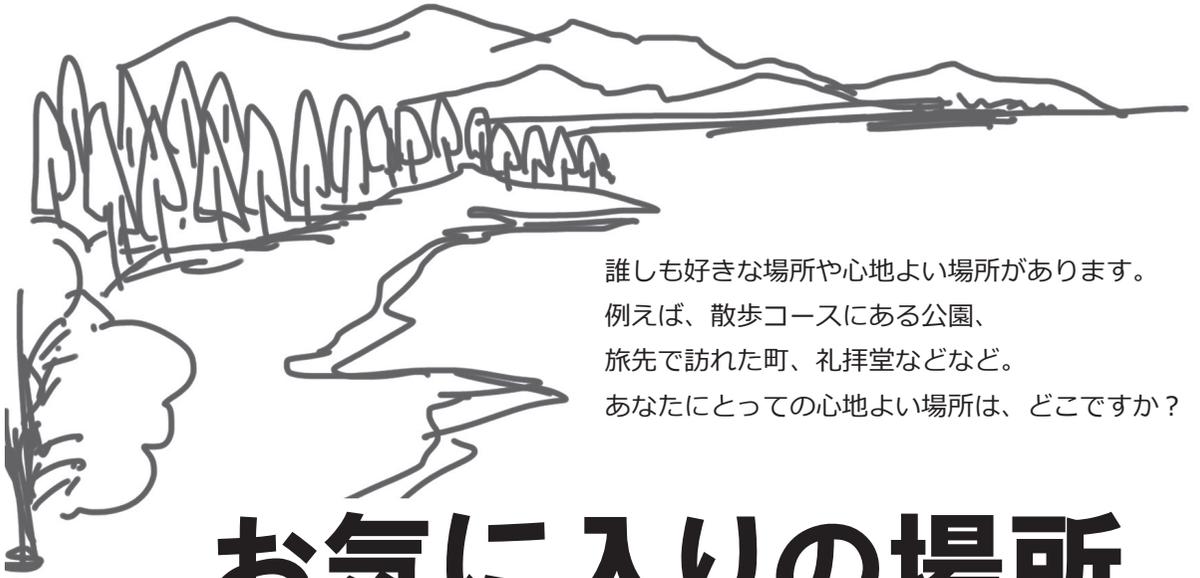
ご自分の洗礼活動をフアリサイ派が敵視していることを知り、イエス様はユダヤからガリラヤに逃れます。まだ、捕まったり死んだりすべき時ではなかったからです。しかし、父なる神の定めに従いサマリアを通りました。根深い敵意と偏見から、ユダヤ人が普通ならば避けて通る地を。イエス様は旅に疲れ、シカル町の外、ヤコブの井戸のそばに座っていました。正午頃、サマリアの女性が水汲みに来ます。「水を飲ませてください」とイエス様が頼んだところから、重要な出会いが始まります。相手がユダヤ人の男、それも多分ラビのような立場の者だと感づいた女性は非常に驚きました。ユダヤ人がサマリアに来ていること

に。ラビが道端で女に話しかけるという不適切な振舞いに。ユダヤ人が「不浄」とみなすサマリア人に水を所望するという非常識に。彼女はそれを率直に口にしました。すると相手は、「私が誰なのか知っていたら、『生ける水をください』と、あなたの方が私に頼んだらうになあ」と、妙なことを言い始めます。「自分のほうが良い湧き水を知っている」などと、大ぼらを吹いているのだらうと、彼女は受け取りました。しかしこの変なユダヤ人の男は、さらに大風呂敷を広げます。「この水を飲む者は誰でもまた渇く。しかし、私が与える水を飲む者は決して渇かない。私が与える水はその人の内で泉となり、永遠

の命に至る水が湧き出る」(ヨハネ4章13～14節)。

彼女は本気にしませんでした。そんな魔法の水みたいなもの、あるわけがない。「主よ、渇くことがないように、また、ここに汲みに来なくてもいいように、その水をください」(15節)。「旦那、そんなにいい水があるなら、言うだけじゃなくて実際にくださいな」と、からかったのでしょうか。この時点では、彼女は信じていませんでした。しかし、後になって思い出した時、この女性は言ったでしょう。「あの井戸での出会いから、間違いない、私の人生は変わった」と。イエス様が与えると言われた水は、聖霊、神の霊のことです。神の霊を与えることができるのは神様だけ。他には、神の子であるイエス様だけです。ヨハネは、自分の後から来る偉大な方は「聖霊によって洗礼を授ける人」すなわち神の子だ、と証言していました。聖霊が私たちに与えられることで、私たちは父なる神様と共に、御子イエス様と共に、いつまでもいることができます。深い愛でしっかりと結び合わされ、どんな時

にも、死の時にさえも、引き離されることはありません。ヨハネによる福音書は、こういう命の在り方を「永遠の命」と呼ぶのです。話をしている相手が誰なのか、彼女はまだ知りませんでした。「永遠の命に至る水」を与える、神の子イエス様だとは。しかし、もうすぐ知ることになります。「主よ、渇くことがないように、また、ここに汲みに来なくてもいいように、その水をください」(15節)。信仰の言葉として、心からそう言えるようになるでしょう。私たちが今、この井戸の傍らに來ています。教会は、シカルのヤコブの井戸です。初めは、こんなところで何かが起こるとは、誰しも思わない。しかし、不思議な旅人が座っています。あまり見栄えはしません。迫害から逃れてきた、疲れた旅人。いやそれどころか、十字架につけられ、葬られて、3日目に復活された方。その体に、釘打たれた傷跡を持っている方。その方は神の子です。私たちにも、この私にも、永遠の命に至る生ける水を与えるために今ここに來てください(1月11日)



誰も好きな場所や心地よい場所があります。

例えば、散歩コースにある公園、

旅先で訪れた町、礼拝堂などなど。

あなたにとっての心地よい場所は、どこですか？

お気に入りの場所、 心の風景 part 2

お気に入りの場所

大西 順

沖縄の日本返還から4年経った1976年、高校2年生の時でした。我々の学年は自分たちで修学旅行先を決めて良いと学校から通達があり、私は修学旅行委員に早速手を挙げ、ネットも旅行誌も全く発達していない時代、沖縄の地図を広げ、目をつぶってここ！と指差し、津堅島^{つげんじま}という沖縄本島から船で30分位の離島を修学旅行先に決めました。硫黄分が強く、ハブも生息していない、周囲8kmの小さな島でしたが、総勢50名ほどで、誰も観光に行くことのない津堅島へ漁船2隻で向かいました。

津堅島に着くとそこは白砂の砂浜が広がり、マリンブルーの海の水はとてつもなく透明で、珊瑚礁がどこに行っても透けて見えませんでした。早速木製の棧橋から海に飛び込むと、その棧橋のすぐ下に伊勢海老がいました。島には旅館が一軒しかなく、東京から今で言うJK・DKが突然大挙して押し寄せて来たので、島は大騒ぎとなりました。また漁船を2隻手

ヤーターして、沖の珊瑚礁の上で船から飛び込んだり、釣り糸を垂らしてハリセンボンを釣りあげたり、砂浜でスイカ割りをしたり、夜は街灯の一つもない神社で肝試しをしたり、キャンプファイアーの周りでフォークダンスをしたり、夢のような時間を過ごしました。

それから50年経ち、この津堅島を修学旅行に参加した10名ほどのメンバーで、ここ4年ほど前から毎年11月頃訪れています。島には定期航路が出来、木製の棧橋はコンクリート製の強固なターミナルとなりました。マリンスポーツを楽しむシークルーズ社が一軒出来たほかは50年前と変わらず、大型資本によって観光化されていない本来の島の状態のままです。沖縄本島の方々に「津堅島行くんです」と言うと、「何しに行くの」と言われてしまうほど、素朴さを保った津堅島ですが、50年前に初めて訪れた私たちにとっては間違いなくお気に入りの場所、忘れられない場所となっています。

故郷

遠藤路得子

思い出の場所と言えば、やはり子供から大人になるまで育った広島しか思い出せない。入学が昭和20年なので、正に原爆の年だ。

幼稚園が自宅のようだったので、伸び伸びと育ち、とにかく学校に行くのが嫌で、逃げ回って母が追いかけ、結局つかまって押入れに入れられていた。私にとっては、押入れが楽しく、泣いていた子が静かにしているの、母が根負けして、娘の言いたい放題の我がままを聞いてくれてやっと学校に行っていた。その頃は毎晩のように空襲警報に悩まされていたが、学校に行っている時にはなかったように思う。幼稚園の庭には、防空壕らしき穴があり屋根がないので、水がたまっていた。何かの式典があった日で大好きな洋服を着ていたのにその穴をとび込めて遊んでいて落ちてしまい、入学式用に母が作ってくれたセーラー服

に着がえることになり、そのことの方がうれしかった。

母の手作りの通学用のカバンやその他私なりに大切な物を疎開のために入れておいたが、その日は急に来て、身の回りの物しかトラックには乗せられず、母と姉と弟の4人で荷台に乗り、市内から20kmの山奥に行った。しかしその疎開先の学校にも泣きながら行っていて、姉に学校の方からも泣き声が聞こえたよ！と言われていた。

小3で市内に帰って来た時の様子は忘れられないほど、黒い土地に家はなく、海の方まで見渡せていた。広島女学院大学の敷地内の小さい家に家族7人（父が一人原爆に遭っていた）誰も欠けることなく住んでいた。大学は山の中にあり遊び放題だった。夜停電になると家族で讚美歌を歌っていた。5年生の頃、西区に教会が出来た。牧師館などなく教会での生活で、日曜は早く起こされ会堂掃除や椅子を拭いたり、牧師の娘なのが嫌だったが、中学、高校では友達が礼拝に来てくれて、教会が家で幸せだった。最近が高層ビルが建ち、昔の頃を懐かしく思う。

スコットランド・オークニーのブロー・オブ・パーゼイ

國田あつ子

スコットランドの北の海にあるオークニー諸島にはユネスコ世界文化遺産の旧石器時代の遺跡や、巨大なストーンサークルがある一方、現在は波の力を利用した波動発電という自然エネルギーの研究が盛んで、古いものと新しいものがある興味深い諸島です。

私の忘れられない思い出の場所は、メインランドの端っこに、干潮になると歩いて渡れる小さな無人の島。訪れたのは6月下旬、ちょうど良い時間帯で歩いて島に渡れました。青い空は高く、澄みわたり、小さな灯台がポツンと一つあるだけ。ゴツゴツの岩肌のような地面には張りつくように草が広がりに、所々に、ピンクや、黄色、白の小さな野の花がしがみつくように咲いていました。遮るものは何もなく、島の端まで歩き見下ろ

すと切り立った崖に白い波が砕け散り、柵も立て札もなく、目の前にはどこまでも続く海が広がっています。「そうだがこの海は太平洋ではなくて、大西洋なのだ、ずいぶん遠くへ来ているんだ私」と、なんと静かで心地よいのだろうか、と、しばらく草地に腰をおろして、この時間を独り占め、何ものにも代え難い、素敵な時間でした。当時は東京と関西を往復する忙しい生活で、思いがけない贈り物のような体験でした。

スコットランドに出かけるようになったきっかけは、実は、経堂北教会でのこと。礼拝のあと、故高橋愛和兄との話で「ストーンサークルを見に行きたい」と言ったら、「國田さんそういうことに興味があるんだね。今度スコットランドの、カラニッシュというストーンサークルのある遺跡に行きますよ、よかつたら一緒にいらつしやい！」とのお誘い。「神様はどこかで聞いていたのかしら」と行くことを即決。そして思い出のオークニーへは二回出かけました。もう一度行きたいところです。

鴨方と安中の思い出

清水清佳

私の思い出に残る場所は岡山県鴨方です（現在は浅野市鴨方町）。父の仕事で1歳頃から幼稚園入園前まで住んでいました。岡山弁がべらべらだったとか。庭に植えたスイカ、ご近所に可愛がつてもらったこと。移動販売の軽トラにシヤコがカゴいっぱい盛られていたこと。断片的ですが覚えていきます。大人になり岡山県出身の人から「鴨方はすごい田舎だ」と聞いて少しショックでした。よく考えようと当時から周りにお店もなく、のんびりした所だったので、良い意味で変わらないのかもしれない。

もう一つは群馬県安中市にある日本基督教団安中教会。新島襄が創立に関わった、小さいけれど歴史のある教会です。大河ドラマ『八重の桜』の放映時には観光バスが沢山来て聞いています。両親もこちらで挙式しました。最近では葬儀に出る機会が増えました。昨年

も父の叔母が亡くなり、安中教会で葬儀がありました。

門を入ると少し敷石があり、重厚な扉が開いています。石段を上がり靴を履き替えると木の床がひんやりとした礼拝堂に入ります。昔から変わらない、聖書などが入る長椅子が並び、十字架の左右には静かに佇むステンドグラスがあります。いつ来ても変わらない様子にホッとします。

話は変わりますが、父の葬儀の前に岸牧師から、私はクリスチャーの何代目なのか質問されました。曾祖母がクリスチャーだとは知っていましたが、何代目かはわかりませんでした。2人の叔母が調べてくれたところ、5代目ではないかとのことでした。我が家で6代目は難しいなあと思っていました。しかし、息子は何度も教会や親族の集まりなどで讃美歌に親しんだため、ある日突然「慈しみ深き」を歌っていました。歌詞は覚えていませんが、メロディーはしっかりと覚えて、たまに一緒に歌っています。いつかキリスト教が心の拠り所になってくれたらと願っています。

西南支区婦人部報告

2025年度西南支区婦人部は、委員は7名予定でしたが、実働4名オンライン1名の2名欠員のため、「できる活動だけをする」ということで、始まりました。

今年度の活動は、年4回の委員会を中心に、全体集会3回、「秋の集会」、西南支区音楽部主催の「平和を祈る音楽礼拝」を後援、総会、クリスマスカード手作りの会、対外献金、女性や子ども支援の活動をしている会へのクリスマス献金があります。

「秋の集会」は、11月12日に聖ヶ丘教会で、29名の参加者を得て開催されました。開会礼拝は、藤井清邦牧師に、エフエソの信徒への手紙5章6節〜8節から、「光の子として歩みなさい」との説教をいただきました。人生の歩みは自分が決めているのではなく、キリストによる導きに従うことであると気づかされました。講演は、聖ヶ丘教会会員の山崎達夫兄による『ローマの休日』から見える聖書のみことば」というテーマで、映画のダイジェスト映像を見なが

ら、ローマ（コロセウムやサンピエトロ寺院等）が選ばれた歴史的意味やオードリー・ヘップバーンのラストシーンの表情についての奥深い解説を受け、「主よ、どこに行かれるのですか」ヨハネによる福音書13章36節のみことばを参加者は改めて心に留める機会となりました。西南支区婦人部も小さな集まりであっても、続けていくことが信仰の灯火になると示されたような一日でした。

2月15日に霊南坂教会で開催する西南支区音楽部の音楽礼拝を後援します。

総会は、3月14日に千歳船橋教会で開催いたします。開会礼拝は、山畑讓牧師にお願いしております。

毎年送っているクリスマスカードをみんなで手作りしようと、11月13日に用賀教会の定期集会「手作りの会」に合流してクリスマスカード手作りの会を持ち、カードを9通発送することができました。用賀教会の婦人の皆さんと他教会の委員との共同作業は主にあつてつながっている喜びを感じる時間でした。（河野昌子）

図書委員会だより



経堂北教会にはたくさんのお蔵書があります。会員は自由に借りることができます。ご利用ください。おすすめの2冊を紹介します。

◆教会の本棚◆

『聖書を読んだ30人』

―夏目漱石から山本五十六まで―

鈴木範久著 日本聖書協会

2017年4月

〈入谷眞知子さん寄贈〉

近代日本人は聖書のメッセージをどう受け取ったのか？

「聖書を日本に根付かせた」内村鑑三、「一生を通じた最大の愛読者」新渡戸稲造、「我が罪のありか」ストレイ・シープ夏目漱石、「世を去るまで枕頭にあった」芥川龍之介、「パウロと「経験」を共有する」西田幾多郎などの渾身の力作、一人平均5ページほどと読みやすい。聖書との出会いや、愛用箇所、箇所は各人の業績、著作、作品などの理解に貢献している。ご一読を！

(入谷眞知子)

『涙の夜 喜びの朝』

―受難・復活・聖霊降臨―

日本基督教団出版局

2025年4月

〈綱川めぐみさん寄贈〉

主イエス誕生の喜びに包まれたクリスマスから、教会の暦はレント、イースター、ペンテコステへと続く。この本はこの暦に合わせて、信仰の先達による「祈り」と「メッセージ」が綴られている。

「祈り」木下宣世、丹治めぐみ、春名康範、増田琴、柳谷明、山崎英穂、山本裕司、渡辺正男

「メッセージ」大宮博、加藤常昭、上林順一郎、倉橋康夫、茂洋、篠浦千史、篠田潔、内藤留幸、長津栄、山口紀子 (敬称略)

『信徒の友』に掲載された中から精選されたもの。お読みになって思い出す読者も多いはず。日々の祈りに加えて、新たな祈りの糧としてこの季節に読みたい一冊。

(國田あつ子)



長老のファイル



財務委員の奉仕について少しご紹介する。主には毎週主日礼拝後に献金を集め、財務委員3人と、礼拝献金・月定献金等(茶色の封筒)・対外援助(黄色の封筒)毎に封筒に記載の金額と現金が一致しているかを確認、データ入力する。

コロナ禍や高齢化・病気等で礼拝に出席できない方が増えたことから郵便振替や銀行振込で献金される件数は以前に比べ増加、現金ではないが毎週明細をチェックしデータ入力している。これらは経常会計の収入にあたり、他には教会員以外からの献金や会堂を外部の団体(例・西南支区婦人部)に貸した際の会堂使用料も収入となる。

一方、支出では一部の教会員に問安委員会から週報・『栄光』等を送付している郵送料、神学生援助、教会経費のための牧師宛小口現金を毎月第一週に支出している。また花の日礼拝の花代や教会員から〇〇宛にと指定された献金を支出する場合もある(例・教会学校)。献金の件数・金額が最も多いの

が11月の召天者記念礼拝である。教会員以外のご遺族からの献金が多いため、お名前と金額を慎重に確認しデータ入力する。尚、これは「召天者記念礼拝献金」であり、故人が亡くなった日を覚えて献金する「召天者記念日献金」とは別なので、教会員の方には封筒への記載を正確にお願いしたい。

クリスマスは、イヴ礼拝の献金は「クリスマス献金」として経常会計で処理している。今年度のクリスマス献金は予算100万円を現状下回っている(12月末現在76.5%)。経済情勢厳しい折、やむを得ないとも言えるが、教会員に礼拝後お願いすべきだったかもしれない。教会員の皆様、クリスマスに限らず献金をお願いしたい。

財務で一番神経と時間を使うのは毎月の経常会計報告等の作成で、毎月第一土曜日の午後、私が教会で作成している。これがなかなか手強い。献金は個人情報が含まれるため管理が重要だ。また、所得税納付や教区への報告等、財務に関することは多岐にわたる。今後少しでもこれらを分担できないかを検討したい。(尾藤美紗子)

牧師の寄り道

元総理の銃撃事件の地裁判決が出た。この事件を契機として、旧統一教会の問題が（遅まきながら再び）マスコミで注目されると共に、旧統一教会や他のカルト宗教の信者を親に持つ人々が被害を訴え、いわゆる「宗教2世」問題として報じられるようになった。

キリスト教会は「宗教2世」問題を他所事としてスルーしている、という批判を読んだことがある。

る。批判の論点の一つは、伝統的なキリスト教もカルト化するし、実際に「宗教2世」に重荷を負わせてきた、ということであるようだ。その批判を書いた当人も「2世」クリスチャンで、自分は幼少期から親に聖日厳守を強いられた被害者だ、と感じているらしい。

キリスト教でもマインドコントロール、指導者への盲目的服従の強制が起こりうる。実例もある。しかし、クリスチャンの親が子どもを日曜日に教会に連れて行くことが即、「子の権利の侵害だ」と

言われるなら、それは違う。あくまで方法による。日本の親の大半が子を学校に入れ、受験させ、多くは塾にも通わせる。実態として半ば以上、家庭と社会全体による強制であるのに、「子の権利の侵害」と呼ばれない。それも方法によるし、一応、教育は善だとされてはいるからだ。それなら、教会は善とは認められないのだろうか。

信仰の終わりを意味する。教会が礼拝を重んじるように勧告するだけで「自由の侵害」だという人がいるなら、その人は、教会を建て礼拝にご臨在くださる王イエスを、悪者として扱っているのである。

キリスト教や教会の内部批判は当然、あって良い。ただ、それをする場合、批判の根拠とする善悪の基準は何か、神について、救いについて、自由について、聖書に即した十分な理解を持った上での批判なのか、よく考えてからでも遅くはないと思う。（松谷祐二）

掲示板



- もより教会牧師会
2月2日(月) 午後1:00
- 餅つき 2月15日(日) 礼拝後
- 西南支区平和を祈る音楽礼拝
2月15日(日) 午後2:30 霊南坂教会
- 図書の茶話会 2月22日(日) 礼拝後
- 西南支区青年プログラム
みんなで夕礼拝に行こう！
2月22日(日) 午後3:30～8:30
聖ヶ丘教会
- 西南支区教会フェスティバル
3月20日(金・祝) 午前10:30～午後3:30
聖ヶ丘教会

お詫び

▽『栄光』2026年1月号におきまして、個人が特定される表記がございました。関係者の皆さまにご迷惑をおかけしましたことを謹んでお詫び申し上げます。

今後は再発防止に努めてまいります。

(栄光編集委員会)

「栄光」2026年2月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：松谷祐二
編集：栄光編集委員会
Email：church@kyodokita.com
HP：http://www.kyodokita.com